三谷コミュニティセンター整備事業に伴う発掘調査
横内東遺跡現地説明会資料

2009. 11. 7

1　調査の概要

遺 跡 名　横内東遺跡（よこうちひがしいせき）
所 在 地　高松市三谷町１２０１－１，１２０１－２
調査主体　高松市教育委員会
調査期間　平成２１年９月１５日～１１月３０日（予定）
調査面積　約８３０㎡
調査原因　三谷コミュニティセンター整備事業
遺跡種類　中世集落

2　調査の経緯

コミュニティセンター建設は，これまで遺跡として知られてはいませんでした。しかし，周辺には遺跡が多く存在している（図１）ことから，昨年１０月に遺跡の有無を調べる試し掘り（試掘調査）を実施しました。この結果，鎌倉・室町時代の集落跡が存在することが判明し，新たに遺跡を発見しました。そこで，計画しているコミュニティセンター建設工事に先立って発掘調査を行うことになりました。

発掘調査は９月１５日より開始しており，現在も調査途中ですが，ほぼ遺跡の全様を見ることができる状態となりましたので，本日，一般に公開する機会としました。調査は１１月末頃まで実施する予定ですが，この後，土地造成のため埋め戻すことになります。

3　周辺の主要遺跡

高松市三谷町周辺は，三谷石舟古墳をはじめとする古墳群や最古の須恵器を焼いた三谷三郎池西岸窯跡などの遺跡が数多くあり，さらには古代の官道である南海道の駅が設けられた地域として知られています。主要な遺跡から，この地域の歴史環境を見てみたいと思います。

この地域で最古の遺跡は雨山南遺跡で，旧石器時代の石器製作を行っていたことが推定される遺跡です。縄文時代の遺跡については，はっきりとした所在が不明ですが，三郎池などでこの時代の石鏃が見つかっています。

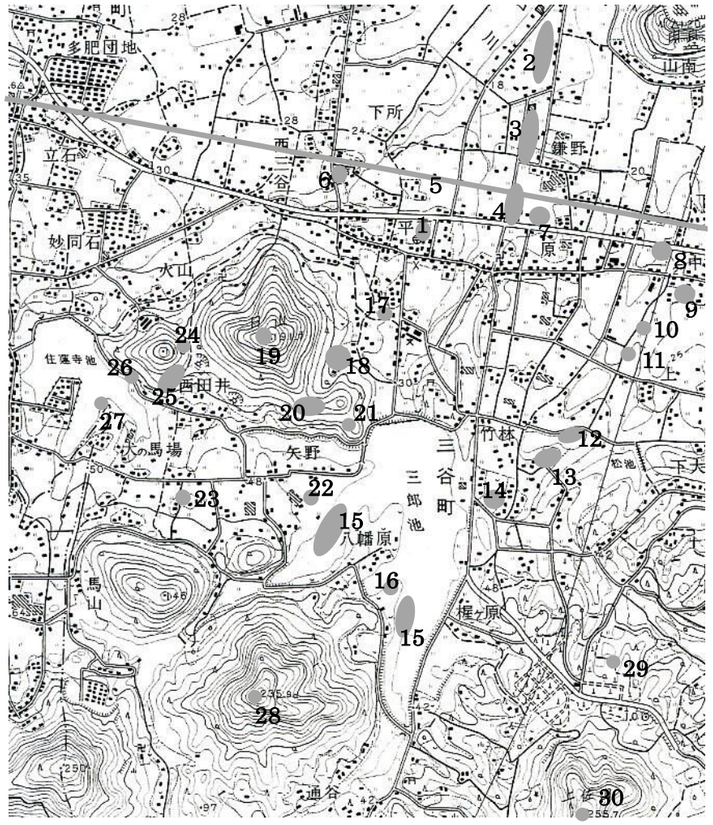
弥生時代では，県道４３号中徳三谷線建設に伴って発掘調査を実施した北野遺跡で，弥生時代前期の土坑や溝跡が発見されています。また弥生時代後期～古墳時代前期の生活痕も北野遺跡，および同道路建設に伴い実施した鎌野西遺跡，三谷中原遺跡で確認されています。また通谷遺跡では，弥生時代後期の土器棺墓が７基見つかっています。

古墳時代では，集落跡はまだ見つかっていませんが，数多くの古墳が知られています。前期古墳には，全長３１ｍの前方後円墳で竪穴式石室をもつ小日山１号墳があります。中期古墳である三谷石舟古墳は，全長８８ｍを測る大型の前方後円墳で，高松平野南部の盟主墳と考えられています。この後の盟主墳として高野丸山古墳が知られ，直径４２ｍの円墳で，幅１０ｍ以上の周濠をもっていました。後期古墳では，全長９ｍ以上の横穴式石室をもつ矢野面古墳が最大規模の石室をもつ古墳になります。

古代では，当時の法令などを記した延喜式にみえる「三谿」の地名から，この地域で官道である南海道の駅が設置されていたと推定されています。これに関しては，やや時期が下がるものの三谷中原遺跡で，平安時代の南海道や条里地割に関係する溝跡が見つかっています。この他，転用された礎石や奈良～平安時代の軒瓦の存在から古代寺院に推定されている高野廃寺が知られています。

中世では，この地域においても，戦国期のものと推定される城館跡が知られ，三谷氏の上佐山城跡・三谷城跡，三谷氏の家臣とされる鎌野や由良氏の鎌野城，由良山城跡などがあります。

参考文献：『三谷郷土史』三谷郷土史編集委員会.1988,『平石上２号墳・石舟池古墳群』高松市教育委員会．2007



1 横内東遺跡
2 北野遺跡
3 鎌野西遺跡
4 三谷中原遺跡
5 旧南海道跡
6 加摩羅神社古墳
7 鎌野城跡
8 高野丸山古墳
9 高野廃寺
10 高野南１号墳
11 高野南２号墳
12 石舟池古墳群
13 三谷石舟古墳
14 三谷城跡
15 三谷三郎池遺跡
16 三郎池西岸窯跡
17 平石上１号墳
18 平石上古墳群
19 日山山頂古墳・経塚
20 小日山１号墳
21 小日山２号墳
22 矢野面古墳
24 北山古墳群
25 雨山南古墳群
26 雨山南遺跡
27 住蓮寺池１・２号墳
28 日妻山古墳・経塚
29 通谷遺跡
30 上佐山（王佐山）城跡

図１　周辺の主要遺跡（縮尺：1／25,000）

4　調査の成果

次に，これまでに分かったことを紹介します。図２は，遺跡の測量図です。北側の狭い正方形の範囲は屯所が建つ予定地で，南側の広い範囲がコミュニティセンターの建物が建つ予定地になっています。これらの予定地で，生活の痕跡である遺構を見つけて調査しています。全体的に，低い土地の西側では長細く伸びる溝跡が集中し，やや土地が高くなっている（微高地）東側では小さな柱の跡が密集しており，東側が居住する場所であったと考えられます。次に，図２を図３のように各時代に分けて見てみます。

【弥生時代以前】調査地の西側で，南北方向の幅１０ｍ前後の川が分岐と合流を繰り返した状況が見つかっています。川跡には砂や黒色の粘土が堆積しており，洪水のように流れが急であったり，また流れが悪くなったりを繰り返して埋まったようです。川跡を少し掘り下げると，今でも湧水が見られます。今のところ，この頃の生活の痕跡は見つかっていません。

【弥生時代以降～古代】川が埋まった後も，低地となった西側と微高地の東側を繋ぐような溝跡が，いくつか確認できます。しっかりとした深い溝が多く，低地への排水や微高地への取水のための水路と考えられます。この時期の出土品や生活の痕跡は少ないですが，これらの溝が伸びる方向に居住域や水田などの生産域が近隣に存在すると予想されます。また，この時期で最も新しいと考えられる東端にある南北方向の溝は，今の地割（土地の区画）と同じ方向になっています。

【中世】生活の痕跡が，最も確認できる時期です。また，今の地割と同じ方向の溝跡が多く見られます。このうち，南端の東西方向の溝と西側の南北方向の溝は土地の区画を示す溝（区画溝）と考えられます。これらの溝の内側では，東側の微高地では柱の穴を多数確認しています。規模や棟数は不明ですが，地面に穴を掘り，建物の周りに柱を立てた平屋の建物が想定されます。東側の微高地にある溝状の窪みや区画溝では，土器などの生活用品が出土していますが，南北方向の区画溝の西側にある井戸跡や浅く広い窪みからも出土品が集中して見られ，西側にも居住域が広がっていたと推定されます。これらの廃棄品から，戦国時代以前に集落が廃絶していたと考えられます。

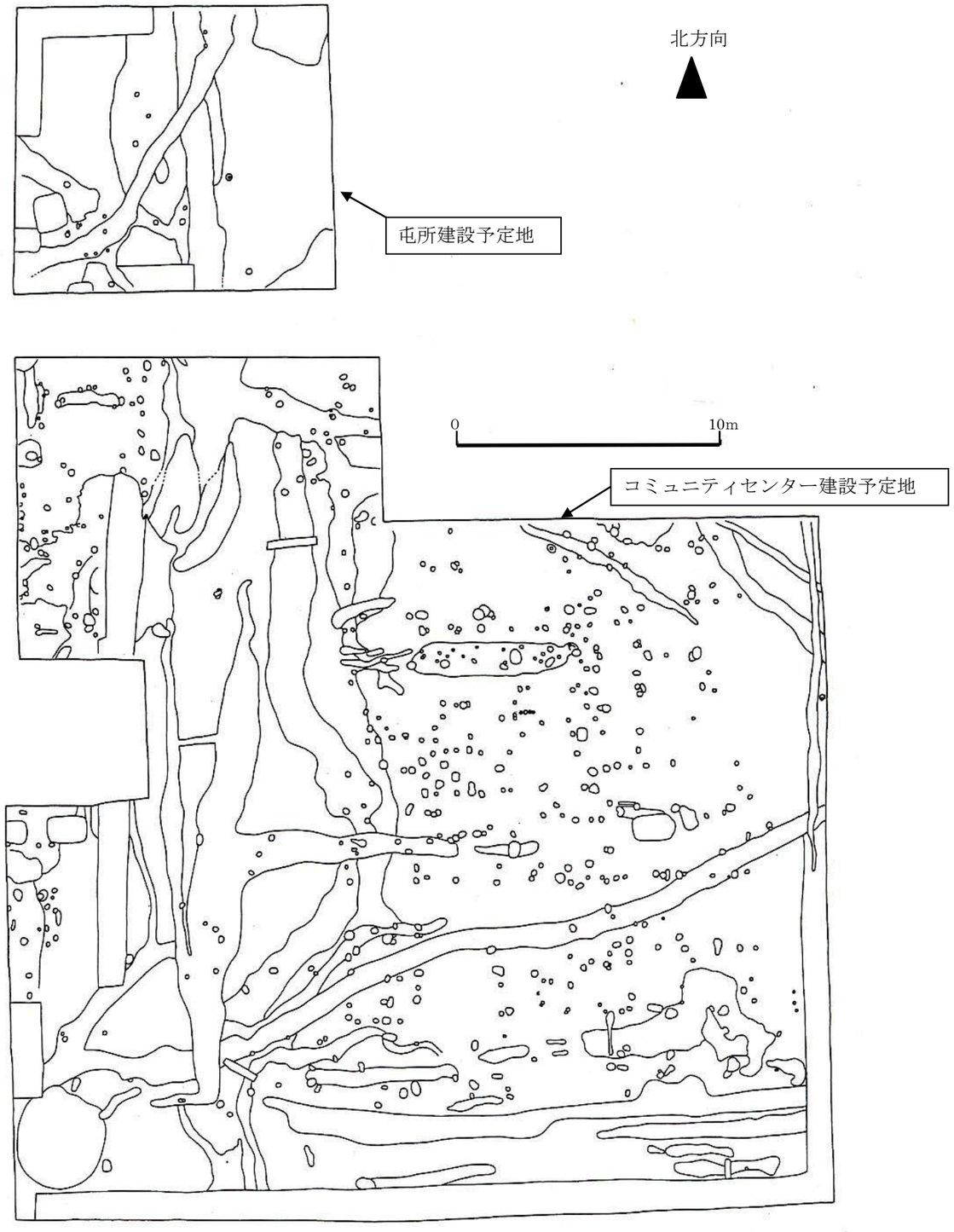


図２　横内東遺跡測量図（縮尺：1／200）

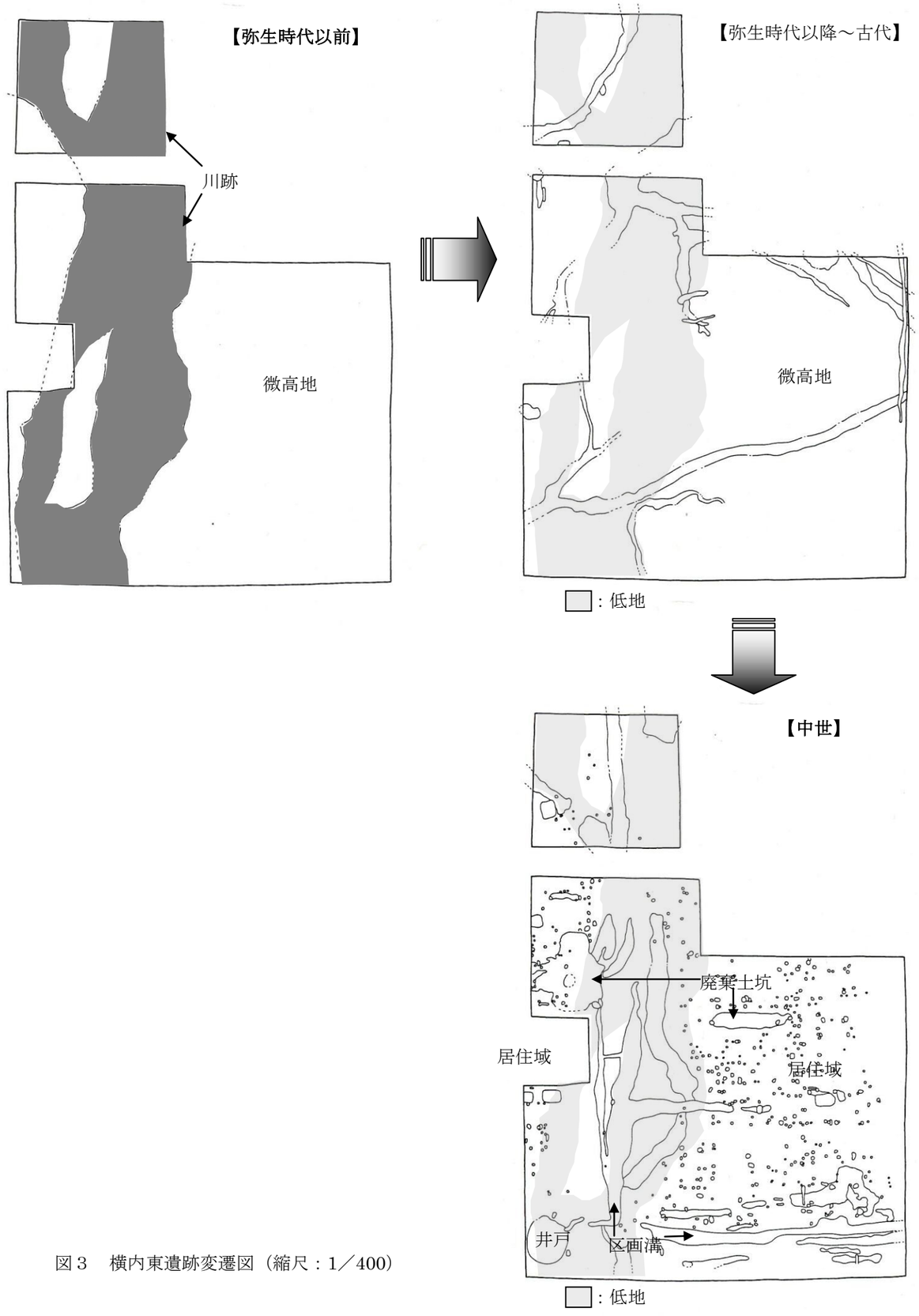


図３　横内東遺跡変遷図（縮尺：1／400）